



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

94.12.1 No. 4104

津田沼支部 第19回定期大会開催

11月29日
船橋東部公民館

奪われた権利・仲間たち
を取り戻すまで闘つて！
―― 津田沼支部長あいさつ ―

十一月二十九日、一七時三〇分
から、船橋市・東部公民館において、
支部組合員、中野委員長らが参加
する中、津田沼支部第一九回定期
大会が開催された。

大会は、高沢書記長の大会成立
宣言後、議長に福島君が選出され
た。
支部長あいさつで、津田沼支部長は
「村山政権による労働者への攻撃
が進められ、あらゆる権利が奪わ
れている。津田沼支部もJRの攻
撃により配転が続き、運転士が六
名になったが、労働委員会闘争や
反合闘争などあらゆる手段をつく
して闘い、奪われた権利や仲間た
ちを取り戻すまで闘いぬこう」と
訴えた。

スローガン提起後、来賓あいさ
つに移り、まず、来年の地方統一
選で四選を目指す中江昌夫船橋市
議は「今の政治は原則を忘れてい
る。すでに一二年になるが、平和
都市宣言に基づく闘いを展開する」
と述べ、また、勝浦市議選に立候
補する水野正美執行委員からは「
四〇名の解雇者の闘いを忘れるこ
となく勝利をかちとる」と決意を
明らかにした。
続いて、中野委員長から、この
間の政治の動きと労働運動の新た

な潮流を求める動労千葉の運動の
重要性、ダイ改を中心とした今後
の反合闘争の展望などが語られた。
執行部から経過報告、会計報告、
九四年度方針案、予算案が提起さ
れた後、質疑討論に入り、公休前
日のDヨビ指定の問題点、指令か
ら運転士への組合差別に基づく登
用が行なわれた問題など、JRの
労務政策に対する怒りが改めて鮮
明にされた。

方針採択後、大会宣言が読み上
げられ、最後に津田沼支部長の団結
カンパローを三唱し、大会は成功
裡に終了した。

九四年度役員体制

役職	氏名	年令
支部長	庄司 仁	三五
副支部長	浜野 善弘	三四
書記長	高澤 成夫	三五
執行委員	高梨 広之	三七
"	福島 勝之	三六
"	相馬 正利	三五
青年部長	結城 敏之	三三
会計監査	斉藤 守秀	三三
"	久古新太郎	三三

一・二・三ダイ改合理化粉砕！
動労千葉総決起集会に結集を
と き き 一二月三日(土)
一八時から
千葉県文化センター
セミナー室(千葉パルコ前)

津田沼支部 配転差別地労委新審問開始
業務移管・強制配転の
―― 不当労働行為性を証言

十一月二十八日、一〇時から、千
葉県地方労働委員会において、津
田沼支部に対する度重なる強制配
転による支部解体攻撃を粉砕する
ために救済申立を行なった「津田
沼支部配転差別事件」の第三回審
問が行なわれ、津田沼から東京へ
の業務移管、強制配転に関する交
渉の経過等について山口執行委員
から証言が行なわれた。

審問は、弁護団から、証拠とし
て提出されている業務移管の資料
申入書、日刊動労千葉などが示さ
れながら証言が行なわれた。
八六年三月の業務移管については、
国鉄当局(当時)も「効率だけで
はない」という発言を行なってい
たこと、新聞にも「今回の決定が
なされた要因は、ストへの報復が
全てではないが、皆無とは言えな
い」(小林運輸部長 当時)とい
う発言が登場するなど、極めて意
図的に業務移管が行なわれ、交渉
においても不誠実な対応に終始し
たことを明らかにした。

さらに、JR移行後も津田沼か
らの度重なる業務移管が行なわれ
これに伴う強制配転が支部の役員
を狙い撃ちにして行なわれている
ことを証言し、九一年三月の二〇
名、九二年一〇月の三名、九三年
四月の五名の強制配転についての
交渉では、動労千葉の申入れに対
し文書での回答も行なわれない当局
の対応などを明らかにした。
また、配転が行なわれる度に配
転の基準が異なっている事実、わ
ざわざ運転士を養成して出来上が
ると配転するという断じて許すこ
とのできない組合差別を行なっ
ていることを訴え、主審問を終了し
た。

次回審問では、山口証人に対す
る会社側からの反対尋問が行なわ
れる予定となっている。
津田沼支部解体攻撃を許さない
ために労働委員会闘争に結集しよ
う。次回審問は、一月二六日、一
〇時の予定。